

未来へ

谷川俊太郎

道ばたのこのスマイルが今日咲くまでに

どれだけの時が必要だったことだろう

この形この色この香りは計りしれぬ過去から来に

遠く地平へと続くこの道ができるまでに

どれだけのけものか人々が通ったことだろう

足元の土に無数の生と死が埋もれている

照りつけるこの太陽がいつか冷え切るまでに

目に見えないどんな力が働くのだろう

私たらしまたその力によって生れてきた

反復法 = 〇
言いかえ =

一三連：現在から過去

このまでに、
だろうの反復から

四五連：現在から未来へ

未来へと内容が
変化する

人は限りないものを知ることができない

だが人はそれと生きていることができる

倒置法

限りある日々の彼方を見つめて (語順が逆になっている)

まだ来ないものを人は待たながら創っていく

誰もきみに未来を贈ることはできない

何故ならきみが未来だから

このあとにどんな言葉が絶えると思いますか？
それが詩のメッセージです。考えて書こう。